

3 調査結果の要約

◆定住意向、健康、環境、社会活動等 問1～問6

- ・定住意向が65.4%と6割以上を占めており、移転意向は「市内の他の場所」「市外」とともに1割未満。年代が高いほど定住意向が高い。
- ・適正体重を「知っている」割合は75.8%と大半であるが、30代でやや低い傾向。
- ・体重コントロールは「している」「していない」がほぼ半々。男性より女性が、また年代が高い方が「している」割合が高い。
- ・定期的な運動は「していない」が6割以上を占めている。女性より男性の方が、また年代が高い方が「している」割合が高い。
- ・日頃、環境にやさしい生活意識が高く、選択肢8項目中5項目で5割以上の回答。前回の調査に比べてわずかに意識の高まりがみられる。
- ・仕事以外の活動をしている割合は約4割。趣味活動が多いが、農林業等の自営業は「婦人会、自治会、子供会等の地域活動」が2割で、趣味活動は少ない。

◆現在の、裾野の取組みについて 問7～問8

- ・第三次裾野市総合計画に位置づけられている51施策(38項目)に対する重要度・満足度は、「健康・福祉・教育」分野では、健康分野の満足度が高く、教育分野では低い。満足度の平均スコアは-0.02である。重要度は高い項目が多く、平均スコアは1.27。
- ・「自然・環境・都市基盤・安全」分野では、自然・環境分野でゴミの不法投棄や公害を除いて満足度は高く、都市基盤では低い。平均スコアは-0.14。重要度は各項目とも高く、平均スコアが1.29。満足度は高くないが、重要度が高い項目が多く、重点的に改善・改革を進める必要のある分野といえる。
- ・「地域産業」分野は、施策4分類の中で最も満足度の平均スコアが低く、-0.31。重要度も最も低く、平均スコアは0.81。
- ・「市民主体・行財政」分野では、『市民のための行政サービス』への関心が高い。全体的には満足度が低い分野である。平均スコアは-0.26。重要度の平均スコアは1.10。
- ・市政全体の満足度は“不満”が“満足”をわずかに上回り、スコアが-0.05。年代が高いほど満足度は高い傾向。

◆ボランティアについて 問9～問10

- ・ボランティア活動を現在している割合は1割に満たない。今後の意向は更に少ない。年代が高いほど現在活動中である割合が高い傾向。
- ・ボランティアセンターを「知らない」人が6割強であるが、年代が高いほど周知率は高い。

◆男女共同参画について 問11～問19

- ・「結婚している」は約7割、「結婚していたが、離婚・死別した」が約2割。子どもがいるは約8割。
- ・「男は仕事、女は家庭」の考え方に、“賛成”“反対”がほぼ同率。高年代ほど“賛成”が多い。

- ・家庭内における役割分担の現状は、いわゆる性別役割分担が顕著に現れているが、理想は「男性女性ともに仕事、家事は男性女性で分担」が最も多い。しかし考え方は、性別、年代別による違いが顕著にみられる。
- ・男女の地位の格差が感じられる分野は『社会通念やしきたり』『社会全体』で、7割前後が“男性優遇”と回答。
- ・『女性の生き方』の理想は、主に2項目で、「結婚して子どもを持つが退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が過半数を占める。
- ・男女共同参画社会の実現に対する要望は、支援や施策の充実など、具体策は女性が高く、男性は、男女共同参画意識の啓発で女性より高い割合。
- ・国際交流の活発化に向けて「文化、スポーツの交流」が最も多く求められている。

◆障害者の社会参加活動に関する認知度について 問20～問22

- ・障害者のスポーツ大会は、存在は知られているが、7割を超える人が内容までは知らない。
- ・「みどり作業所」の周知状況は、よく知っている人が2割。若年代は「知らない」が過半数。
- ・「みどり作業所」の広範囲にわたる周知は「広報紙やポスターなどによる広報活動の充実」が最も多い。男性が、意識的な働きかけで女性より高くなっている。

◆障害者の災害支援について 問23～問26

- ・地域における重度障害者や寝たきりの家族が同居する世帯の把握は4割弱。親しい付き合いは女性や高年代で多い。
- ・災害時に備えた取り組みは「地域・近所での日ごろからの協力体制づくり」が6割で圧倒的。しかし、2割以上の項目も多く、必要とされる取り組みは多岐にわたっている。
- ・災害時における重度障害者等の対応に必要な訓練は「情報伝達」「救出救助」で6割。「安否確認」まで半数を超える回答で、訓練の重要度が高い。

◆墓地について【世帯主による回答】 問27～問36

- ・裾野市には「自分の代から」住んでいる人が半数。「先祖代々」裾野市に住んでいる割合は、年代が高いほど多い。
- ・お墓は「持っている」が過半数。世帯主の年代が高いほど「持っている」率も高い。
- ・墓を持っている人の移転や新規購入意向は1割に満たない。購入希望者の望ましい運営形態は「公営の墓地」で6割強の回答。
- ・墓を持っていない人の購入意向は約3割。年代が高いほど「公営の墓地」を希望する割合が高くなり、年代が低いほど「寺院等宗教法人が経営する墓地」を希望する割合が高い。
- ・購入条件は上位3項目で過半数の回答と、条件を複数持つ人が多い。
- ・裾野市内の公営墓地設置は「必要である」と「どちらともいえない」がほぼ同率。
- ・墓の形式は、「従来から見られる墓地」の形式を良いと考える人が4人に1人。女性より男性の方が、また年代が高い方が、さらに大家族の方が従来型を好む。